

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600511
法人名	有限会社エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 杜の家
所在地	愛媛県西条市朔日市892番地
自己評価作成日	平成 27年 8月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 9月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

”・ホームの建物は平屋で広々とした田舎風の落ち着いた雰囲気のある住まいで、外庭は畑や花壇など緑に囲まれています。
・職員は笑顔を大切にしており、利用者さんを最優先に優しい声かけや対応を心がけています。
・玄関にボードを置き利用者の方の写真や予定表を張り、普段の様子を知ってもらえるように努め、面会時には生活の様子や希望などを聞くように努めています。
・毎年夏祭り大会やもちつき大会を開催して、地域の方にも参加してもらっています。
・毎月の避難訓練と年二回の防火訓練(消防立会い)、津波想定避難訓練を実施しています。
・サービスの質の向上する為に、毎月勉強会や勤務年数に応じた研修を行っています。”

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東予港近くの地元企業や主要施設で賑わう利便性良い立地にあり、開設11年を迎えた。近隣にある今年度移転新築された法人本社は、グループホームをはじめ訪問看護ステーションやヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、通所介護を備え、西条市内の介護拠点として成長している。法人内事業所で組織される各班活動では客観的視点や職員の自主性等を重視し、介護職・看護職それぞれに計画された研修では徹底した職員教育が実施されている。毎月の避難訓練では立地条件を考慮した危機感を持った災害対策が行われている。思いやり溢れる職員の対応や24時間体制でのスムーズな医療連携は、利用者や家族等にとってより高い安心感へとつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 杜の家

(ユニット名) 北

記入者(管理者)
氏名 岡田 太志

評価完了日 平成27年 8月 11日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は笑顔で穏やかなその人らしい生活を送ってもらえるように、朝の申し送りでスタッフ全員で復唱して共有しながら常に意識づけをしている。また新人職員には新人研修で理念の意義について説明をおこない、業務に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人内グループホームの共通運営理念を持ち、それを元に毎年職員で話し合って年間目標を作成している。今年は「思いやりの気持ちを大切にしよう」を目標に掲げ、入職時の研修で説明すると共に、リビングに掲示し申し送り時の唱和で日頃から意識付けして共有している。利用者に関わる職員の表情や言葉がけ等対応は優しく温かみを感じられる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所のスーパーや店に買い物に行き、挨拶したり買い物を楽しんだり、地域の保育園と散歩の時に話をしたり運動会に参加して交流を行っている。また夏祭りでは近隣の方と一緒に楽しんだり、交通安全の立ち番を行い地域の交通安全活動に参加している。</p> <p>(外部評価) 準工業地に立地し住宅の少ない地域ではあるが、向かいのタクシー会社や美容室等開設以来のご近所さん付き合いを大切にしている。地域の保育園とは互いに行き来できる関係が構築されている。地域の一員として自分たちにできることを法人全体の取組みとして検討し、交通安全の立ち番や認知症介護に関する講演活動等、地道な活動を長期に渡り継続させている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連携を取りながら、運営推進会議などで近所の方に参加してもらい介護教室を開いたり、高校の授業で認知症介護の講演を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、サービスの内容や行事、設備について報告 を行っている。また、改善点など積極的な意見をいた だいており、改善出来ることはすぐに改善しており、 報告書を作成して職員で回覧しサービスの向上に 努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族、市担当者や地域包括支援センター職 員、民生委員、地域住民、地域医療を担う協力医療機 関や近隣にある特別養護老人ホームと多岐にわたる参 加を得て開催している。参加者の意見を取り入れた年 間計画を作成し、事業所からの運営状況の報告やPR 活動、地域情報の交換、防災等の安全対策ほか様々な 議題で意見交換ができています。行事参加やスライド ショーでの報告等の工夫を図りながら、参加する誰も が有意義な時間となり、そこで出た率直な意見をサー ビスにつなげるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1回、市の相談員の方が来訪してくれている。 普段から市の方に相談させていただいており、質の向 上に取り組んでいる。またホームでの事故や苦情など は市長村へ連絡、相談させてもらい適切な指導を頂い ており、3ヶ月に1度のサービス向上連絡会に出席して いる。	
			(外部評価) 市担当者には運営推進会議への参加を通して、実情を 伝えたり情報発信してもらっている。報告書の提出等 の連絡や相談で直接面会する機会を増やし、協力関係 をより強いものとしている。2か月毎の定期的な介護 相談員の訪問で、外部目線での客観的な意見を得るこ とのできる機会としている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 社内、社外研修を通して日頃から身体拘束防止に対す る意識を高めているが、「ちょっと待って」などの言 葉を使用していることがあり、職員間で声をかけ合い 気をつけるようにしている。玄関の施錠は防犯上の観 点から、夜間のみ(20:00~8:00)行っている。	
			(外部評価) 拘束をしないケアを徹底し、年間研修計画に盛り込 み、職員が正しく理解できるよう学びの機会を設けて いる。定期的に学びの機会を持つことで職員の意識を 高めている。話し合いで目標を持ち、スピーチロック につながる言葉がけの排除等、日常のあらゆる場面で 利用者の人権を守るケアに取り組んでいる。事業所内 は誰もが自由に行き来することができ、安全を確保し ながら抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社外の研修や社内の勉強会で、虐待防止について学んでいる。また、ミーティングでも話し合い職員間でも日々の業務でも虐待防止に気をつけて注意し合うようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会にできるだけ参加して学ぶ機会を持つようにしており職員全員に周知している。現在、利用者もおられ、市と連携しながら相談があった場合には活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の方、家族の方が理解や納得ができるように時間をかけて十分な説明を行い話し合いながら手続きを進めている。また契約時に限らず疑問に対して話し合う時間を取っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談員の方が定期的に来てくれており、運営推進会議にや家族会を定期的を開催して意見や要望をいただいて改善に取り組んでいる。また家族会にてアンケートを実施し意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。苦情は報告書を作成し、ミーティングにて話し合い改善するように取り組んでいる。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者の意見や要望を伺っている。利用者の暮らしぶりや運営状況は定期的にお便りとして発送し、電話連絡や面会時、運営推進会議では率直な思いを開ける良い機会としている。また家族会を開催し、家族同士での意見交換の場を設け、家族アンケートの実施で得られた意見を運営に反映させている。言うことをためらう家族の心情を察し、より多くの意見や要望を気軽に出せる機会を大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃の業務の中や月一回全員参加の部署別会議で不安や提案事項、意見について管理者を通じたり直接聞くようにしており、話しやすい雰囲気を作るように心がけている。また、職員にて各班（研修、安全衛生、環境整備など）を運営して意見や提案を取り入れて反映させている。	
			(外部評価) 日常業務や部署別会議では職員が気軽に意見交換したり相談しやすい環境にある。今期管理者の交代があったが、さまざまな年代や個人々の希望に配慮した就業環境の整備に努め、法人代表者と綿密に連絡や相談をすることができている。法人全体の取組みとして、資格取得支援や介護職員として必要な知識や技術の習得ができるよう積極的な社内研修を実施している。法人全体で組織された研修、安全衛生、環境整備、社内新聞の各班に加え、新たに企画班が追加され、自主性やチームワークを高めた運営ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は管理者や各職員の努力や勤務状態をその都度話し合う時間を持ち確認している。また、日常の会話の中からもストレスに対する悩みを把握するように努めている。職員の資格取得に向けた支援も行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内研修班を設置して勤務年数に応じて研修を行っており、毎月の実技の勉強会や介護職や看護職に分かれての研修も実施している。社外の研修には職員の力量に応じて参加しており、研修内容は報告書にて職員全員が周知できるようにしている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣の他施設の運営推進会議に参加させてもらったり、社外の研修にて同業者と交流する機会を持ち、意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には本人さんの気持ちに向き合うことが出来るようにゆっくりと時間をかけて話を聞いて要望などをフェイスシートに記入して職員間で共有するようにしている。また利用者の方の普段の会話や表情から気持ちが理解出来るように、側で過ごし思いをくみ取るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には特に時間をかけるように心がけて、家族の方から困っていることや不安、要望等を聞くように努めている。またこまめに電話連絡や面会時に話を聞き、ホームでの生活の様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることなど利用者の方や家族の方の本音を聞けるように努め、今必要としている支援を相談して話し合い対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意なことや昔の職業などを把握して、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら一緒に過ごすように努めている。また、利用者の方から教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方から情報を得たり、面会時には日々の様子を報告し、情報交換を行い、状態の変化時には随時報告を行っている。またホームの行事にも出来るだけ参加して頂き、利用者の方と一緒に楽しく過せるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には馴染みの方とゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。また、お誕生日にはお弁当を持って外出支援をすると共に馴染みの場所へドライブに行くなど本人にとって特別な日になるように心がけている。 (外部評価) 利用者のこれまで培ってきた人間関係や社会とのつながりを把握することに努めている。フェイスシートやアセスメントシートで情報を共有し、日々の生活で新しく知り得た情報は追記し、毎年情報を更新している。地方祭の時期には自宅に外泊したり、受診等で外出の際には家族で食事を楽しんだり、同じ美容院を引き続き利用したりと、これまでの関係や習慣を断ち切ることなく、また新しく生まれた馴染みの関係を大切にする支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中で職員が関わる時間を多くして、利用者の方同士の関係を把握できるように努めている。また座る位置に配慮して見守りを行い孤立しないようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方の面会に行ったり、家族の方へ連絡して相談を受けたり、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから把握するよう努めている。また得た情報はフェイスシートを利用して職員間で共有するようにしている。本人からの訴えが困難な方には、表情やしぐさから思いを汲み取ったり家族の方から情報を得ている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、記録や申し送り等で情報を共有している。また意向に沿った暮らしの支援について課題を検討し、日々の実践へつなげることができている。意向の把握が困難な状況にあっても家族等から情報を得る等して、本人の視点に立った検討をすることができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族さんから得た情報はフェイスシートを利用し職員間で共有している。生活歴や昔の話は聞いているが、十分ではない所もある。また同一法人内の他事業所を利用されていた方は情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテ、フェイスシート、アセスメントシートなどを用いて一日の過ごし方や生活リズムを把握に努めている。また病状変化などはカルテに赤枠で記入し、本人ができる事を暮らしの中で見つけていく努力はしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 朝の申し送り時や面会時、適宜ケース検討会、サービス検討会を行い、それぞれの意見を聞いて介護計画書に反映したり、状態の変化の時にはその都度介護計画の見直しを行っている。計画は家族さんにわかりやすいように説明し同意を得ている。	
			(外部評価) 職員は日頃から申し送りや即日のケース検討で状況に応じた意見交換ができています。サービス担当者会議では利用者や家族等を含め、看護師や介護支援専門員、職員等チームで課題について話し合い、意見やアイデアを出している。介護計画は誰が見てもわかりやすい表現に配慮され、3か月毎にモニタリングを実施している。介護計画はケース記録に挟み込むことで常に確認が取れるよう工夫され、計画に沿った支援の実施と記録へつなげることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) カルテに食事量、水分量、排泄等を記入しており、日々の暮らしの様子や本人の言葉でありのまま記入する様努めている。また気づきやサービス内容を実施しての考察も記入するようにしており、申し送りで職員全員で共有するように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また訪問看護に医療面ではフォローしてもらっている。隣に通所介護が設けられているのでリハビリ室を利用したりして通所介護の利用者の人たちとも馴染みの関係が出来てきている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市の相談員の方や近隣の病院、警察の方の協力、防火訓練も行い消防の方にも来てもらっている。また近くに店やスーパーがあり協力を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 状態に合わせて本社の訪問看護の看護師が対応し、必 要時や希望時は随時協力病院にて受診を行い受診状況 は家族さんに連絡している。また本人さんや家族さん の希望や状況に応じて、長年かかっているかかりつけ の医師に往診に来て頂き、継続して受診を行っている。 (外部評価) 協力医療機関と連携を取り、協力医の毎月の往診があ る。利用者の殆どが協力医療機関を利用しているが、 専門医の受診等適宜利用者や家族等の希望に沿った医 療が受けられるよう支援している。法人本社の訪問看 護部門と看護師の配置による医療連携は心強く、日々 の健康管理と併せ利用者の安心した生活につながって いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 本社の訪問看護の看護師と連携しながら、利用者の方 の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。 また、職員はいつもと違うことに気づいた時には、本 社の訪問看護の看護師に相談したり、朝の申し送りな どにて情報交換にも努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には主治医や病棟看護婦、ケースワーカーと の連携を保ち情報交換を行い、退院後の受け入れ態勢 を整えるように努めている。また往診時に主治医より 助言を頂いたり相談したり、定期受診の際に情報交換 を行い関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期を迎えるにあたり、早い段階から家族の方、医 師との話し合いを持っている。終末期に関しての指針 を定めており（家族の方、主治医の協力がある。医療 行為は行わない。）家族の方とも十分に話し合いなが ら、安心感がもてるよう対応し、急変時にはすぐに対 応してもらえるよう医療機関との連携もとれている。 (外部評価) これまでに看取りの経験もあり、重度化や終末期に向 けた看取りの指針を整備している。入居時に希望や意 向について話し合いを行い、事業所としてできること を説明し、同意書を取り付けている。所内研修にて学 びの機会を持つことで職員の不安軽減にも配慮してい る。協力医療機関と法人本社の訪問看護部門及び事業 所看護師、職員とのスムーズな連携による緊急時体制 にも安心感がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応については、社内の勉強会や研修で実技形式で緊急時の対応を学ぶ機会を設けており、消防署の救急隊員に依頼して来てもらい訓練指導を行っている。またマニュアルを作成して各自閲覧したり、職員間で話し合ったりしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月避難訓練を行い、年2回は消防署の立会い指導のもと訓練を行っており、また津波を想定しての訓練もマニュアルを作成して年に3回実施し、いつ起こるかわからない自然災害へも対応できるように努めている。	
			(外部評価) 年2回、消防署立ち合いで昼夜想定での避難訓練を行いアドバイスを受けている。そのほかに自主訓練として火災や津波想定での避難訓練を毎月実施し、地域住民から参加を得ている。事業所が海に近いという立地を考慮し、緊急時の備えに対し意識が高く危機感をもった取組みとなっている。毎月の訓練には法人内各事業所からも立ち合い参加することで、客観的視点を持った気付きを得ることができている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として一人ひとりの人格を尊重した関わりを持つように努めている。また職員同士声をかけあいながらプライバシーにも対応し、声かけや対応にも気をつけるよう心がけている。	
			(外部評価) 事業所の理念でもあり、利用者の誇りを尊重した対応ができている。地域性ある方言等言葉遣いや利用者の希望を取り入れた呼び方を取り入れながらも、気になる言葉がけについては職員同士がその都度声を掛け合い注意し合っている。職員は個人情報及びプライバシー保護について社内研修にて学ぶ機会を持ち、具体的に確認し、書類等の取り扱いも適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方に合わせて答えやすいように声かけをし、自分で選択や決定出来るように心がけている。10時の水分補給時には一人ひとりの希望を確認し、利用者の方の意思を大切にしよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り利用者の方のペースに合わせるように心がけており、職員同士で声をかけたり話し合っている。一人ひとり利用者の方の気持ちや希望を聞きながら、日々生活してもらえよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装は本人さんに選んでもらい、なるべく自分の好みのもを着てもらおうようにしているが十分でない。また、起床時に洗面所にて洗顔してもらったり、鏡をみて自分のクシで髪をとってもらったり、不十分な時は直すように心がけている。食事などで衣類が汚れた場合も、その都度更衣していただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは職員が行っているが、利用者の方の状態に合わせて声かけして片付けは下膳したり、もやしの根とりなどは、職員と一緒にしている。また献立表を見ながらメニューについて会話している。おやつ作りや昼食作りは利用者の方と一緒に月1回は作る機会を設けて行うようにしている。	
			(外部評価) 調理を中心に担当する職員が配置され、利用者のできることを活かした準備や片付け等と一緒にしながら支援することができている。季節の食材を取り入れた栄養バランスの取れた献立は法人の栄養士が作成している。職員と共に食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事や手作りのおやつを楽しんでいる。また、併設の通所介護事業所と共に敷地内にある畑で作物を育てており、皆で収穫した作物が食卓に上り利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が1日の栄養所要量を基にバランスを考えて献立を作成しており、季節感や個々の嗜好などを重視し、状態に応じてキザミやトロミをつける等の調理工夫を行っている。また排泄記録表に食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声かけを行い、利用者の方に応じた口腔ケアを行っている。また、肺炎予防のため口腔内に食べ物の残渣物が残っていないか確認している。義歯は清潔に保てるように定期的にポリドントを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表にて排泄パターンを記入しながら、排泄時間や間隔を把握しトイレでの排泄を考え、職員同士声をかけ合いながら誘導を行っている。出来ることは自分で出来るように声かけや見守りをして、出来ない部分を介助するよう心がけている。	
			(外部評価) 日々の飲食や運動、医療管理と併せた健康管理に配慮がある。排泄記録表を用いて利用者の排泄パターンを把握し、職員間で情報を共有している。利用者個々の状態に合わせてポータブルトイレや用品の工夫をし、できることを奪わず排泄の自立に向けた支援に取り組むことができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつにて食物繊維の多い芋類や海藻や豆、キノコや野菜類等は、毎日食べていただいている。また水分補給を十分に行えるように、好みの飲み物を準備するなど工夫している。またリハビリや体操などで体を動かしたり、医師の指示のもと下剤の調整を行い便秘の予防に心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調面などで入れない日もあるが基本的に曜日は決めていない。時間帯は希望を聞きながら行えている人もいるが、意思疎通の難しい方には困難な時がある。入浴時のプライバシーにも配慮し同姓介助になるように努めている。	
			(外部評価) 夏季週3回、冬季週2回の目安はあるが、利用者の希望に応じいつでも入浴できるように支援している。健康面等の状態により入浴ができない場合、清拭や足浴を実施し、清潔保持に努めている。また、入浴の苦手な利用者には誘い方等を工夫し、同性介助やプライバシーに配慮し羞恥心を損ねない対応が心がけられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人さんや家族の方に生活習慣を聞きながら、なるべく生活リズムを整えるよう努めている。その方に応じて寝つけない時には温かい飲み物をのみながら話をしたり、ソファでゆっくり過ごしてもらっている。また環境整備に努めたり、安楽な体位で休めるように研修も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) カルテに薬の説明が記載されている物をとじ、理解できるように努めている。また分からないことは訪問看護の看護師に確認している。状態変化の時には訪問看護の看護師に連絡して、主治医と相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯干しや洗濯たたみ、食事の準備、菜園などの状態に応じてできることをしてもらっている。少しでも出来ることは手伝ってもらえるようにフェイスシートを見たり、話を聞いて楽しんだり気分転換出来るように心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの利用者の方の体調や状態、希望に沿って、外庭散歩やドライブを行い、戸外で気持ちよく過ごしてもらえるように努めている。普段行けない場所には家族の方の協力を得てなじみの場所へ行ったり、外食など行っているが、十分行えているとは言えない。 (外部評価) 広い敷地内は芝生敷きされ、きちんと整備が行き届いており、日光浴等の気分転換ができる。日常的に事業所周辺地域へ散歩に出かけ、地域の人々と触れ合う機会を持っている。個々の希望に沿った対応について目標を掲げ、誕生月の思い出の場所への外出や地域行事への参加等、家族協力を得ながら出かけられるように取り組むことができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の協力を得てお小遣い程度で持ってもらう方もいるが、ほとんどの方はホームで立て替え等で対応している。外出時や買い物の時は立て替えであるが、職員と一緒に買い物をされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員の介助にて家族の方と希望時に話をしたり、手紙は本人さんが書きたいときにやり取りできるように支援しており、取次はスタッフがしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掃除に心がけており、換気や室温調整に努めている。浴室やトイレは一般家庭と同じものを使用している。テレビの音や職員の声のトーンに気をつけている。日中は眩しくないよう時間や天候に合わせてレースのカーテンを使用しており、ホールには季節に応じた物を飾るように心がけている。 (外部評価) 法人内の各事業所で結成される環境整備班により点検や整備が行われ、清掃や換気、温度等環境整備への配慮が行き届いている。事業所全体は木材や落ち着いた色調で調えられ、利用者は好きな場所で和やかな時間を過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールや玄関にはソファやベンチがあり、気の合った方同士でゆっくりと過ごしてもらえるよう工夫している。居室にて一人でも過ごせるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人さんや家族さんの話を聞きながら少しずつではあるが、自宅で使っていたものを持ってこられ、人形や家族の方の写真や絵を置いたりされている。また、馴染みのカセットテープ、ラジカセを持ち込んでいたり好みのお花を飾っている方もおられ、居心地よく過ごせるように工夫している。 (外部評価) エアコン、ベッド、整理タンスが備えられ、使い慣れたものや好みのもを持ち込んでもらうよう家族等の協力を得て、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。居室は清潔に整えられており、モップがけ等の清掃ができる利用者はできることを継続している。利用者の習慣や状態により畳敷きにしたりと柔軟な対応に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。廊下には整理整頓を行い歩行の障害になるものは置かないようにしている。また各居室には名札があったり花をかけたりしてわかりやすくしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600511
法人名	有限会社エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 杜の家
所在地	愛媛県西条市朔日市892番地
自己評価作成日	平成 27年 8月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 9月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

”・ホームの建物は平屋で広々とした田舎風の落ち着いた雰囲気のある住まいで、外庭は畑や花壇など緑に囲まれています。
・職員は笑顔を大切にしており、利用者さんを最優先に優しい声かけや対応を心がけています。
・玄関にボードを置き利用者の方の写真や予定表を張り、普段の様子を知ってもらえるように努め、面会時には生活の様子や希望などを聞くように努めています。
・毎年夏祭り大会やもちつき大会を開催して、地域の方にも参加してもらっています。
・毎月の避難訓練と年二回の防火訓練(消防立会い)、津波想定避難訓練を実施しています。
・サービスの質の向上する為に、毎月勉強会や勤務年数に応じた研修を行っています。”

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東予港近くの地元企業や主要施設で賑わう利便性良い立地にあり、開設11年を迎えた。近隣にある今年度移転新築された法人本社は、グループホームをはじめ訪問看護ステーションやヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、通所介護を備え、西条市内の介護拠点として成長している。法人内事業所で組織される各班活動では客観的視点や職員の自主性等を重視し、介護職・看護職それぞれに計画された研修では徹底した職員教育が実施されている。毎月の避難訓練では立地条件を考慮した危機感を持った災害対策が行われている。思いやり溢れる職員の対応や24時間体制でのスムーズな医療連携は、利用者や家族等にとってより高い安心感へとつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 杜の家

(ユニット名) 南

記入者(管理者)
氏名 岡田 太志

評価完了日 平成27年 8月 11日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は笑顔で穏やかなその人らしい生活を送ってもらえるように、朝の申し送りでスタッフ全員で復唱して共有しながら常に意識づけをしている。また新人職員には新人研修で理念の意義について説明をおこない、業務に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人内グループホームの共通運営理念を持ち、それを元に毎年職員で話し合って年間目標を作成している。今年は「思いやりの気持ちを大切にしよう」を目標に掲げ、入職時の研修で説明すると共に、リビングに掲示し申し送り時の唱和で日頃から意識付けして共有している。利用者に関わる職員の表情や言葉がけ等対応は優しく温かみを感じられる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所のスーパーや店に散歩しながら買い物に行き、挨拶したり買い物を楽しんだり、地域の保育園と散歩の時に話をしたり運動会に参加して交流を行っている。また夏祭りでは近隣の方と一緒に楽しんだり、交通安全の立ち番を行い地域の交通安全活動に参加している。</p> <p>(外部評価) 準工業地に立地し住宅の少ない地域ではあるが、向かいのタクシー会社や美容室等開設以来のご近所さん付き合いを大切にしている。地域の保育園とは互いに行き来できる関係が構築されている。地域の一員として自分たちにできることを法人全体の取組みとして検討し、交通安全の立ち番や認知症介護に関する講演活動等、地道な活動を長期に渡り継続させている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連携を取りながら、運営推進会議などで近所の方に参加してもらい介護教室を開いたり、高校の授業で認知症介護の講演を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、サービスの内容や行事、設備について報告 を行っている。また、改善点など積極的な意見をいた だいており、改善出来ることはすぐに改善してお り、報告書を作成して職員で回覧しサービスの向上に 努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族、市担当者や地域包括支援センター職 員、民生委員、地域住民、地域医療を担う協力医療機 関や近隣にある特別養護老人ホームと多岐にわたる参 加を得て開催している。参加者の意見を取り入れた年 間計画を作成し、事業所からの運営状況の報告やPR 活動、地域情報の交換、防災等の安全対策ほか様々な 議題で意見交換ができています。行事参加やスライド ショーでの報告等の工夫を図りながら、参加する誰も が有意義な時間となり、そこで出た率直な意見をサー ビスにつなげるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1回、市の相談員の方が来訪してくれている。 普段から市の方に相談させていただいており、質の向 上に取り組んでいる。またホームでの事故や苦情など は市長村へ連絡、相談させてもらい適切な指導を頂い ており、3ヶ月に1度のサービス向上連絡会に出席して いる。	
			(外部評価) 市担当者には運営推進会議への参加を通して、実情を 伝えたり情報発信してもらっている。報告書の提出等 の連絡や相談で直接面会する機会を増やし、協力関係 をより強いものとしている。2か月毎の定期的な介護 相談員の訪問で、外部目線での客観的な意見を得るこ とのできる機会としている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 社内、社外研修を通して日頃から身体拘束防止に対す る意識を高めているが、「ちょっと待って」などの言 葉を使用していることがあり、職員間で声をかけ合い 気をつけるようにしている。玄関の施錠は防犯上の観 点から、夜間のみ(20:00~8:00)行っている。	
			(外部評価) 拘束をしないケアを徹底し、年間研修計画に盛り込 み、職員が正しく理解できるよう学びの機会を設けて いる。定期的に学びの機会を持つことで職員の意識を 高めている。話し合いで目標を持ち、スピーチロック につながる言葉がけの排除等、日常のあらゆる場面で 利用者の人権を守るケアに取り組んでいる。事業所内 は誰もが自由に行き来することができ、安全を確保し ながら抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社外の研修や社内の勉強会で、虐待防止について学んでいる。また、ミーティングでも話し合い職員間でも日々の業務でも虐待防止に気をつけて注意し合うようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会にできるだけ参加して学ぶ機会を持つようにしており職員全員に周知している。現在、利用者もおられ、市と連携しながら相談があった場合には活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の方、家族の方が理解や納得ができるように時間をかけて十分な説明を行い話し合いながら手続きを進めている。また契約時に限らず疑問に対して話し合う時間を取っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談員の方が定期的に来てくれており、運営推進会議にや家族会を定期的を開催して意見や要望をいただいて改善に取り組んでいる。また家族会にてアンケートを実施し意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。苦情は報告書を作成し、ミーティングにて話し合い改善するように取り組んでいる。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者の意見や要望を伺っている。利用者の暮らしぶりや運営状況は定期的にお便りとして発送し、電話連絡や面会時、運営推進会議では率直な思いを開ける良い機会としている。また家族会を開催し、家族同士での意見交換の場を設け、家族アンケートの実施で得られた意見を運営に反映させている。言うことをためらう家族の心情を察し、より多くの意見や要望を気軽に出せる機会を大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃の業務の中や月一回全員参加の部署別会議で不安や提案事項、意見について管理者を通じたり直接聞くようにしており、話しやすい雰囲気を作るように心がけている。また、職員にて各班（研修、安全衛生、環境整備など）を運営して意見や提案を取り入れて反映させている。	
			(外部評価) 日常業務や部署別会議では職員が気軽に意見交換したり相談しやすい環境にある。今期管理者の交代があったが、さまざまな年代や個人々の希望に配慮した就業環境の整備に努め、法人代表者と綿密に連絡や相談をすることができている。法人全体の取組みとして、資格取得支援や介護職員として必要な知識や技術の習得ができるよう積極的な社内研修を実施している。法人全体で組織された研修、安全衛生、環境整備、社内新聞の各班に加え、新たに企画班が追加され、自主性やチームワークを高めた運営ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は管理者や各職員の努力や勤務状態をその都度話し合う時間を持ち確認している。また、日常の会話の中からもストレスに対する悩みを把握するように努めている。職員の資格取得に向けた支援も行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内で研修班を設置して勤務年数に応じて研修を行っており、毎月の実技の勉強会や介護職や看護職に分かれての研修も実施している。社外の研修には職員の力量に応じて参加しており、研修内容は報告書にて職員全員が周知できるようにしている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣の他施設の運営推進会議に参加させてもらったり、社外の研修にて同業者と交流する機会を持ち、意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には本人さんの気持ちに向き合うことが出来るようにゆっくりと時間をかけて話を聞いて要望などをフェイスシートに記入して職員間で共有するようにしている。また利用者の方の普段の会話や表情から気持ちが理解出来るように、側で過ごし思いをくみ取るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には特に時間をかけるように心がけて、家族の方から困っていることや不安、要望等を聞くように努めている。またこまめに電話連絡や面会時に話を聞き、ホームでの生活の様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることなど利用者の方や家族の方の本音を聞けるように努め、今必要としている支援を相談して話し合い対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意なことや昔の職業などを把握して、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら一緒に過ごすように努めている。また、利用者の方から教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方から情報を得たり、面会時には日々の様子を報告し、情報交換を行い、状態の変化時には随時報告を行っている。またホームの行事にも出来るだけ参加して頂き、利用者の方と一緒に楽しく過せるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には馴染みの方とゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。また、お誕生日にはお弁当を持って外出支援をすると共に馴染みの場所へドライブに行くなど本人にとって特別な日になるように心がけている。 (外部評価) 利用者のこれまで培ってきた人間関係や社会とのつながりを把握することに努めている。フェイスシートやアセスメントシートで情報を共有し、日々の生活で新しく知り得た情報は追記し、毎年情報を更新している。地方祭の時期には自宅に外泊したり、受診等で外出の際には家族で食事を楽しんだり、同じ美容院を引き続き利用したりと、これまでの関係や習慣を断ち切ることなく、また新しく生まれた馴染みの関係を大切にする支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中で職員が関わる時間を多くして、利用者の方同士の関係を把握できるように努めている。また座る位置に配慮して見守りを行い孤立しないようにし、スタッフが利用者同士の架け橋になれるよう心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方の面会に行ったり、家族の方へ連絡して相談を受けたり、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから把握するよう努めている。また得た情報はフェイスシートを利用して職員間で共有するようにしている。本人からの訴えが困難な方には、表情やしぐさから思いを汲み取ったり家族の方から情報を得ている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、記録や申し送り等で情報を共有している。また意向に沿った暮らしの支援について課題を検討し、日々の実践へつなげることができている。意向の把握が困難な状況にあっても家族等から情報を得る等して、本人の視点に立った検討をすることができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族さんから得た情報はフェイスシートを利用し職員間で共有している。生活歴や昔の話は聞いているが、十分ではない所もある。また同一法人内の他事業所を利用されていた方は情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテ、フェイスシート、アセスメントシートなどを用いて一日の過ごし方や生活リズムを把握に努めている。また病状変化などはカルテに赤字で記入し、本人ができる事を暮らしの中で見つけていく努力はしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 朝の申し送り時や面会時、適宜ケース検討会、サービス検討会を行い、それぞれの意見を聞いて介護計画書に反映したり、状態の変化の時にはその都度介護計画の見直しを行っている。計画は家族さんにわかりやすいように説明し同意を得ている。	
			(外部評価) 職員は日頃から申し送りや即日のケース検討で状況に応じた意見交換ができています。サービス担当者会議では利用者や家族等を含め、看護師や介護支援専門員、職員等チームで課題について話し合い、意見やアイデアを出している。介護計画は誰が見てもわかりやすい表現に配慮され、3か月毎にモニタリングを実施している。介護計画はケース記録に挟み込むことで常に確認が取れるよう工夫され、計画に沿った支援の実施と記録へつなげることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) カルテに食事量、水分量、排泄等を記入しており、日々の暮らしの様子や本人の言葉でありのまま記入する様努めている。また気づきやサービス内容を実施しての考察も記入するようにしており、申し送りで職員全員で共有するように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また訪問看護に医療面ではフォローしてもらっている。隣に通所介護が設けられているのでリハビリ室を利用したりして通所介護の利用者の人たちとも馴染みの関係が出来てきている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市の相談員の方や近隣の病院、警察の方の協力、防火訓練も行い消防の方にも来てもらっている。また近くに店やスーパーがあり協力を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 状態に合わせて本社の訪問看護の看護師が対応し、必 要時や希望時は随時協力病院にて受診を行い受診状況 は家族さんに連絡している。また本人さんや家族さん の希望や状況に応じて、長年かかっているかかりつけ の医師に往診に来て頂き、継続して受診を行っている。 (外部評価) 協力医療機関と連携を取り、協力医の毎月の往診があ る。利用者の殆どが協力医療機関を利用しているが、 専門医の受診等適宜利用者や家族等の希望に沿った医 療が受けられるよう支援している。法人本社の訪問看 護部門と看護師の配置による医療連携は心強く、日々 の健康管理と併せ利用者の安心した生活につながって いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 本社の訪問看護の看護師と連携しながら、利用者の方 の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。 また、職員はいつもと違うことに気づいた時には、本 社の訪問看護の看護師に相談したり、朝の申し送りな どにて情報交換にも努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には主治医や病棟看護婦、ケースワーカーと の連携を保ち情報交換を行い、退院後の受け入れ態勢 を整えるように努めている。また往診時に主治医より 助言を頂いたり相談したり、定期受診の際に情報交換 を行い関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期を迎えるにあたり、早い段階から家族の方、医 師との話し合いを持っている。終末期に関しての指針 を定めており（家族の方、主治医の協力がある。医療 行為は行わない。）家族の方とも十分に話し合いなが ら、安心感がもてるよう対応し、急変時にはすぐに対 応してもらえるよう医療機関との連携もとれている。 (外部評価) これまでに看取りの経験もあり、重度化や終末期に向 けた看取りの指針を整備している。入居時に希望や意 向について話し合いを行い、事業所としてできること を説明し、同意書を取り付けている。所内研修にて学 びの機会を持つことで職員の不安軽減にも配慮してい る。協力医療機関と法人本社の訪問看護部門及び事業 所看護師、職員とのスムーズな連携による緊急時体制 にも安心感がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応については、社内の勉強会や研修で実技形式で緊急時の対応を学ぶ機会を設けており、消防署の救急隊員に依頼して来てもらい訓練指導を行っている。またマニュアルを作成して各自閲覧したり、職員間で話し合ったりしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月避難訓練を行い、年2回は消防署の立会い指導のもと訓練を行っており、また津波を想定しての訓練もマニュアルを作成して年に3回実施し、いつ起こるかわからない自然災害へも対応できるように努めている。 (外部評価) 年2回、消防署立ち合いで昼夜想定避難訓練を行いアドバイスを受けている。そのほかに自主訓練として火災や津波想定避難訓練を毎月実施し、地域住民から参加を得ている。事業所が海に近いという立地を考慮し、緊急時の備えに対し意識が高く危機感をもった取組みとなっている。毎月の訓練には法人内各事業所からも立ち合い参加することで、客観的視点を持った気付きを得ることができている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として一人ひとりの人格を尊重した関わりを持つように努めている。また職員同士声をかけあいながらプライバシーにも対応し、声かけや対応にも気をつけるよう心がけている。 (外部評価) 事業所の理念でもあり、利用者の誇りを尊重した対応ができている。地域性ある方言等言葉遣いや利用者の希望を取り入れた呼び方を取り入れながらも、気になる言葉がけについては職員同士がその都度声を掛け合い注意し合っている。職員は個人情報及びプライバシー保護について社内研修にて学ぶ機会を持ち、具体的に確認し、書類等の取り扱いも適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方に合わせて答えやすいように声かけをしたり、表情などで確認し、自分で選択や決定出来るように心がけている。10時の水分補給時には一人ひとりの希望を確認し、利用者の方の意思を大切にしよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り利用者の方のペースに合わせるように心がけており、職員同士で声をかけたり話し合っている。一人ひとり利用者の方の気持ちや希望を聞きながら、日々生活してもらえよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装は本人さんに選んでもらい、なるべく自分の好みのもを着てもらおうようにしているが十分でない。また、起床時に洗面所にて洗顔してもらったり、鏡をみて自分のクシで髪をとってもらったり、不十分な時は直すように心がけている。食事などで衣類が汚れた場合も、その都度更衣していただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは職員が行っているが、利用者の方の状態に合わせて声かけして片付けは下膳したり、もやしの根とりなどは、職員と一緒にしている。また献立表を見ながらメニューについて会話している。おやつ作りや昼食作りは利用者の方と一緒に月1回は作る機会を設けて行うようにしている。	
			(外部評価) 調理を中心に担当する職員が配置され、利用者のできることを活かした準備や片付け等と一緒にしながら支援することができている。季節の食材を取り入れた栄養バランスの取れた献立は法人の栄養士が作成している。職員と共に食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事や手作りのおやつを楽しんでいる。また、併設の通所介護事業所と共に敷地内にある畑で作物を育てており、皆で収穫した作物が食卓に上り利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が1日の栄養所要量を基にバランスを考えて献立を作成しており、季節感や個々の嗜好などを重視し、状態に応じてキザミやトロミをつける等の調理工夫を行っている。また排泄記録表に食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声かけを行い、利用者の方に応じた口腔ケアを行っている。また、肺炎予防のため口腔内に食べ物の残渣物が残っていないか確認している。義歯は清潔に保てるように定期的にポリドントを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表にて排泄パターンを記入しながら、排泄時間や間隔を把握し、トイレでの排泄を考え、職員同士声をかけ合いながら誘導を行っている。出来ることは自分で出来るように声かけや見守りをして、出来ない部分を介助するよう心がけている。	
			(外部評価) 日々の飲食や運動、医療管理と併せた健康管理に配慮がある。排泄記録表を用いて利用者の排泄パターンを把握し、職員間で情報を共有している。利用者個々の状態に合わせてポータブルトイレや用品の工夫をし、できることを奪わず排泄の自立に向けた支援に取り組むことができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつにて食物繊維の多い芋類や海藻や豆、キノコや野菜類等は、毎日食べていただいている。また水分補給を十分に行えるように、好みの飲み物を準備するなど工夫している。またリハビリや体操などで体を動かしたり、医師の指示のもと下剤の調整を行い便秘の予防に心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調面などで入れない日もあるが基本的に曜日は決めていない。時間帯は希望を聞きながら行えている人もいるが、意思疎通の難しい方には困難な時がある。入浴時のプライバシーにも配慮し同姓介助になるように努めている。また違うユニットでの入浴も楽しめるように声かけを行っている。	
			(外部評価) 夏季週3回、冬季週2回の目安はあるが、利用者の希望に応じいつでも入浴できるように支援している。健康面等の状態により入浴ができない場合、清拭や足浴を実施し、清潔保持に努めている。また、入浴の苦手な利用者には誘い方等を工夫し、同性介助やプライバシーに配慮し羞恥心を損ねない対応が心がけられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人さんや家族の方に生活習慣を聞きながら、なるべく生活リズムを整えるよう努めている。その方に応じて寝つけない時には温かい飲み物をのみながら話をしたり、ソファでゆっくり過ごしてもらっている。また環境整備に努めたり、安楽な体位で休めるように研修も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) カルテに薬の説明が記載されている物をとじ、理解できるように努めている。また分からないことは訪問看護の看護師に確認している。状態変化の時には訪問看護の看護師に連絡して、主治医と相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯干しや洗濯たたみ、食事の準備、菜園などの状態に応じてできることをしてもらっている。少しでも出来ることは手伝ってもらえるようにフェイスシートを見たり、話を聞いて楽しんだり気分転換出来るように心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの利用者の方の体調や状態、希望に沿って、外庭散歩やドライブを行い、戸外で気持ちよく過ごしてもらえるように努めている。普段行けない場所には家族の方の協力を得てなじみの場所へ行ったり、外食など行っているが、十分行えているとは言えない。 (外部評価) 広い敷地内は芝生敷きされ、きちんと整備が行き届いており、日光浴等の気分転換ができる。日常的に事業所周辺地域へ散歩に出かけ、地域の人々と触れ合う機会を持っている。個々の希望に沿った対応について目標を掲げ、誕生月の思い出の場所への外出や地域行事への参加等、家族協力を得ながら出かけられるように取り組むことができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の協力を得てお小遣い程度で持ってもらう方もいるが、ほとんどの方はホームでお金を預かったり、立て替え等で対応している。外出時や買い物の際は立て替えであるが、職員と一緒に買い物をされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員の介助にて家族の方と希望時に話をしたり、手紙は本人さんが書きたいときにやり取りできるように支援しており、取次はスタッフがしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 掃除に心がけており、換気や室温調整に努めている。浴室やトイレは一般家庭と同じものを使用している。テレビの音や職員の声のトーンに気をつけている。日中は眩しくないよう時間や天候に合わせてレースのカーテンを使用しており、ホールには季節に応じた物を飾るように心がけている。</p> <p>(外部評価) 法人内の各事業所で結成される環境整備班により点検や整備が行われ、清掃や換気、温度等環境整備への配慮が行き届いている。事業所全体は木材や落ち着いた色調で調えられ、利用者は好きな場所で和やかな時間を過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールや玄関にはソファやベンチがあり、気の合った方同士でゆっくりと過ごしてもらえるよう工夫している。居室にて一人でも過ごせるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人さんや家族さんの話を聞きながら少しずつではあるが、自宅で使っていたものを持ってこられ、人形や家族の方の写真や絵を置いたりされている。また、馴染みのカセットテープ、ラジカセを持ち込んでいたり好みのお花を飾っている方もおられ、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) エアコン、ベッド、整理タンスが備えられ、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでもらうよう家族等の協力を得て、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。居室は清潔に整えられており、モップがけ等の清掃ができる利用者はできることを継続している。利用者の習慣や状態により畳敷きにしたりと柔軟な対応に努められている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。廊下には整理整頓を行い歩行の障害になるものは置かないようにしている。また各居室には名札があったり花をかけたりしてわかりやすくしている。</p>	